

# 聖陵 Sei-Ryou

## CONTENTS

2008.3 Vol.11  
盛岡大学聖陵同窓会報

発行者／盛岡大学聖陵同窓会  
事務局／〒020-0183

岩手県岩手郡滝沢村滝沢字砂込808 盛岡大学内

電話.019-688-5555

ホームページアドレス

<http://www.morioka-u.ac.jp/seiryou/index.html>

- 同窓会長あいさつ.....1
- 学長就任あいさつ.....1
- 計 報.....2

【門屋光昭先生・石龜紀男先生・佐藤晋先生・竹本貞之先生】

- 在校生活活動報告.....3
- 活躍する卒業生.....3
- 卒業生活躍寸描.....4
- 事務局だより.....4
- 編集後記.....4



### 一人ひとりの未来は対話から

同窓生の皆さんお元気でお過ごしですか？  
私達の聖陵同窓会も、25期を迎え約8千人の会員に至る迄になつております。

昨年大学は、学長として望月新学長を迎えた対話による開かれた大学を作ろうとスタートされました。私達も微力ながら支援して参りたいと考えております。

また聖陵同窓会は、在校生の大会遠征、さんさ踊り等の補助や母校への寄付金を通じて大学を支援して参りました。更に同窓会支部創設の準備を実施。会員相互の交流の場作りを提供したいと考えております。話は変わりますが、先日岩手日報に30人31脚でミラクル岩手が全国3位入賞した記事が掲載されていました。この指導にあたっていたのが同窓生の石龜雅哉先生（平成十二年度 児童教育学科卒業生）と聞きました。その光景はテレビでも映し出され、子供達とのふれあいが、とても感動的で私自身涙が出て、同時にさらなる自信と誇りを頂戴した次第です。

終わりに皆様、今後共大学と聖陵同窓会に温かい御支援よろしくお願い致します。

→同窓会長 あいさつ  
盛岡大学聖陵同窓会会长  
菅原 元

→学長就任 あいさつ  
学長 あいさつ

盛岡大学学長  
望月 善次

### 力を合わせん

（）一体の力こそが「ミラクル盛大」を更に豊かにする！

昨年の十二月に学長に就任した望月善次（もちつき よしつぐ）です。

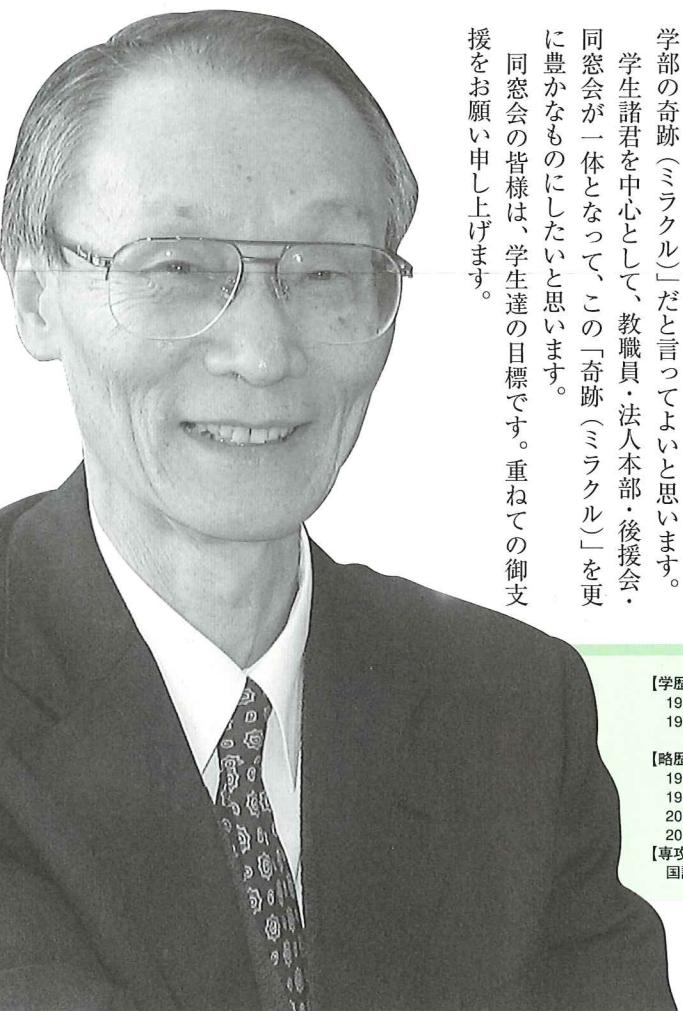
盛岡藩のルーツ山梨県の出身。東京教育大学大学院修了。東京都立江戸川高校（定時制）を経て1979年4月から2007年3月まで、岩手大学に在職しました。

専門は国語科教育学で、石川啄木と宮澤賢治を中心とした詩歌教育研究と教師教育研究とをテーマとしています。（学生時代から下手な短歌を作っています。）

地方大学、私立大学、文科系大学の三重苦を抱つてゐる盛岡大学が、いくつかの試練を潜りながら定員割れを起こさずに来たのは、「盛岡大学・盛岡大学短期大学部の奇跡（ミラクル）」だと言つてよいと思います。

学生諸君を中心として、教職員・法人本部・後援会・同窓会が一体となつて、この「奇跡（ミラクル）」を更に豊かなものにしたいと思います。

同窓会の皆様は、学生達の目標です。重ねての御支援をお願い申し上げます。



#### 【学歴】

1967年 3月 東京教育大学文学部文学科（国語・国文学専攻）卒業  
1977年 3月 東京教育大学大学院教育学研究科（人文科教育）修士課程修了

#### 【略歴】

1989年 4月 岩手大学教授（教育学部）  
1999年 4月 岩手大学教育学部長  
2007年 5月 岩手大学名誉教授  
2007年 12月 盛岡大学学長就任

#### 【専攻分野】

国語科教育学（全国大学国語教育学会理事長・会長）

# 訃報

昨年、お世話になった先生がたが、あいついでお亡くなりになりました。  
在りし日のお姿を偲び、ここにプロフィールと同窓生の思い出の言葉を紹介します。

## 門屋先生を偲んで

平成十六年度 日本文学科卒業生 樋口 聰志

昨年の十二月九日、北上市内で執り行われた門屋先生の葬儀に参列させていただきました。祭壇には私の記憶にある、そのままの姿の先生の遺影が飾られ、訃報自体突然のことでありましたから、葬儀会場に立つても、まだ信じられない気持ちでした。

学生の頃、先生には卒論指導、博物館学芸員資格指導、サークル活動等の様々な面でお世話になりました。なかでも「博物館見学実習」で行つた宮城県での研修の際には、立ち寄る博物館毎に、パン

フレットには載っていない事細かな指導をいただき、大変貴重な経験をさせていただいたと感じています。

現在でも私は、休日等に博物館へ出掛けます。数々の展示物から学び取れる事は、来館回数が増すとともに増えて行きます。生じた疑問に先生からの答えをいただくことはできませんが、今後も学生時代に教わったことを大切にして、勉強を続けて行きたいと思います。

門屋先生、本当にありがとうございました。

現在私は石龜先生と同じ教員という職に就いています。そして今は、そばにいる子どもたちとのように向き合つたらよいのかと、試行錯誤を繰り返す日々です。

そんな中で、先生のことを思うと必ず私の心に残るものがあります。それは、先生の私たちに対するあたたかな想いでした。どんな時でも、いつもあたたかく私たちを応援してくださった先生。言葉

今は子どもたちに対して満足にできないことの方が多いけれど、先生の教えを忘れずに子どもたちの成長をいつでもあたたかく見守れる教師でありたいと思います。

## 石龜先生の教え

平成十八年度 児童教育学科卒業生／仙台市立折立小学校教諭 相澤 香理



門屋 光昭先生 平成19年12月5日逝去

昭和21年生まれ。昭和49年から平成4年まで岩手県内の高等学校および岩手県教育委員会に勤務。この間岩手県立博物館にて学芸調査員（民俗担当、最終職名：主任専門学芸調査員）を務める。平成4年3月に岩手県立盛岡北高等学校を退職し、同年4月、本学助教授として採用。平成9年に教授となり、学務部長、入試センター所長、図書館長、文学部長を歴任。平成6年から平成13年3月まで北上市立鬼の館初代館長兼務。平成19年3月、盛岡大学退職。盛岡大学名誉教授。



石龜 紀男先生 平成19年3月4日逝去

昭和15年生まれ。昭和41年から平成10年まで岩手県内の小学校、教育事務所および岩手県教育委員会に勤務。この間岩手県科学教育研究連合会や岩手県小学校長会の要職も兼任された。平成13年3月に盛岡市立厨川小学校長を定年退職し、同年4月、本学特任教員教授として採用され、15年に教授となり教職課程室長を務める。平成17年に文部科学省に採択された教員養成GP「教育コミュニティによる実践力の養成と評価－異学年クラスと教育拠点校との連携－」の中核を担われた。

# 在校生活活動報告



## エネルギーに、アグレッシブに! ダンスシーンを盛り上げろ!

私たちダンスサークル「FREE STYLE」は、一昨年できたばかりのサークルです。ダンスをする楽しさを仲間と分かち合い、岩手・盛岡のダンスシーンを盛り上げたいと思い、作りました。ジャンルはHIP HOP, Reggae, Breakin, を主に日々練習中です。

盛岡大学の文化祭や、盛岡のダンスイベントなどのショーケースに出演し活動しています。去年は岩手県大学生合同イベント「JOY-INT」に主催幹部や出演から参加し、他大学ダンスサークルと共に岩手のダンスシーンを熱く盛り上げました。これからも練習を重ね、個人個人のスキルアップとチームの連帯感を成長させ頑張っていきたいと思います。

代表 英語文化学科3年 櫻田 智佳子

## 活躍する卒業生

今年で3回目を迎える「ドリームさんさ」は  
「盛大さんさ」のOB・OGグループです。



盛岡大学を、そして盛大さんさを卒業していった皆さんと、いつまでもなんらかの形で繋がっていきたいという想い、これ以上ないくらいの『仲間』となることができたのに卒業したら終わってしまうなんて寂しい、という想いから『ドリームさんさ』が結成されました。

平成一桁台卒業の大先輩から卒業したばかりの新社会人までが一同に集まり、練習回数こそ少ないものの毎回の練習がちょっとした同窓会のようです。

皆さんがまた帰ってこられる場所、また頑張ろうと思える場所、新たな出会いの場所としてこれからも続いていけばいいなと思っています。

皆さんの参加をお待ちしています!!

平成17年度 英米文学科卒業生 龜澤 美沙緒

佐藤先生を偲んで



佐藤 晉先生  
平成19年10月10日逝去

大正11年生まれ。昭和19年から58年まで岩手県内の小学校、教育事務所および岩手県立教育センター、岩手県教育委員会、盛岡市教育研究所に勤務。また岩手県小学校長会会長の職も務める。昭和58年3月盛岡市立仁王小学校長を退職し、平成元年10月、本学教授に採用される。平成5年3月の定年退職時まで教職課程指導研究室長を務め、その後も非常勤として平成3年3月31日まで教鞭をとられた。

竹本先生を偲んで



竹本 貞之先生  
平成19年3月23日逝去

明治45年生まれ。昭和8年から19年まで愛知県、千葉県、宮城県などで中学校などの教諭を務めた後、昭和19年から岩手師範学校(現、岩手大学教育学部)に助教授兼教諭として勤務。昭和52年に教授として退官、岩手大学名誉教授。同時に生活学園短期大学(現、盛岡大学短期大学部)教授に採用。盛岡大学教授には昭和56年4月に採用。盛岡大学の創設に尽力され、盛岡大学図書館初代館長を務められた。昭和60年3月定年退職。昭和42年からは岩手哲学会長も務められた。

※英米文学科の奈良昂先生(S62.4 ~H12.3在職)も平成19年2月20日に76歳で亡くなられました。ご遺族などからの公式なお知らせがありませんでしたのでこの報告のみ掲載させていただきます。



厨川第11校舎(ピアノレッスン棟)

他にも多くの卒業生がいろいろな場で活躍をしているが、自分が盛岡大学に関係した一人として、卒業生の活躍が一番嬉しく、誇らしく思う。

木村純子さん、土田江利子さん、藤村裕子さんの三人である。木村さんは、盛岡市立永井小学校に勤務し、在学時代からピアノ演奏が堪能で、その演奏力を日常の授業、特別教育活動に生かし、盛岡地区

ここに紹介する卒業生は、木村純子さん、土田江利子さん、藤村裕子さんの三人である。木村さんは、盛岡市立永井小学校に勤務し、在学時代からピアノ演奏が堪能で、そ

とがある。  
大の各学校の音楽科担当の教員が組織している岩手県音楽教育研究会(以下略)して県音研。O.B.(OBも含む)を通して活躍している卒業生を紹介する。なお、この県音研は東北音研、全日音研に連なる研究組織であり、何年か前に厨川幼稚園が東北大会で公開保育したこと

の中心メンバーとして活躍をしている。土田さんは、岩手県立盲学校に勤務し、視覚障害児のため、仁王小学校の児童と連携して授業の効果を上げたり、小学校連合音楽会などの特別活動に参加して視覚障害児に音楽の喜びを与えている。藤村さんは、九戸村立伊保内小学校に勤務し、教育活動、特別活動に携わると同時に、県音研九戸支部の事務局運営に当たり、県音研運営の重要な責務を担っている。



内部

## 事務局便り

**12月15日、エスピワールいわてで平成19年度の聖陵同窓会役員会を開催しました。**



現役学生に負けるな!これぞ伝統盛大魂いつまでも引き継がれる熱い絆。同窓生の皆様の参加をお待ちしています。

きながら、お互いの近況報告や学生時代の思い出話に花が咲きました。また、母校に対する夢・希望や応援できることなどなどいろいろと語り合うことができました。後半はただの宴会になっていた感もありますが、今後の活動への大きな活力になりました。総会の開催希望もあり、同窓生の皆様方とも交流できる機会を増やしていくことを思っています。

お友とお説いあわせの上ご参加ください。総会の開催希望もあり、同窓生の皆様方とも交流できる機会を増やしていくことを思っています。

### ■編集委員

吉田 典子/畠村 とも子/高橋 美奈子/佐藤 大裕

昨年は同窓会報創刊10周年を記念し、記念号を無事刊行することができました。今年もお蔭様で「聖陵」第11号を刊行することができました。編集委員会では節目である今号から心機一転レイアウト等のリニューアルを試みてみました。さほどの変化は感じないかも知れませんが、「あれ、なにか違うな」とお気づきいただけたら幸いです。

これから新たな気持ちで会報内容も考慮し、新しい角度から同窓会を見つめ会員の皆様に情報を伝えたいと編集委員一同切に思っています。

今後とも会報を通じて今まで以上のご支援ご協力のほど宜しくお願い申しあげます。

住所や氏名の変更がWEB上からも簡単に変更できるようになりました。

同窓会ホームページからセキュリティにも配慮した登録情報変更フォームを是非ご利用ください。

URL <http://www.morioka-u.ac.jp/seiryou/index.html>

## 平成18年度收支決算報告

### 収入の部

項目	予算額	決算額
終身会費	3,800,000	3,350,000
雑収入	9,000	19,320
特定崩預金入	200,000	0
計	4,009,000	3,369,320
前年越年度金	489,600	489,600
合計	4,498,600	3,858,920

### 支出の部

項目	予算額	決算額
事業費	1,060,000	641,460
事務費	100,000	84,000
通信費	600,000	647,880
会議費	50,000	1,653
慶弔費	50,000	53,969
旅費交通費	100,000	81,580
財政基盤繰り支	1,500,000	1,500,000
予備費	1,038,600	—
計	4,498,600	3,010,542
次年越年度金	0	848,378
合計	4,498,600	3,858,920